

平成 23 年度号 No.31 平成 23. 5. 10 発行
〒275-8790 千葉県習志野市泉町 2-1-37
東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会
TEL/FAX 047-472-1160
URL <http://www.dosokai.org>
E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

目次

- 同窓会総会開催案内…………… 1
- 会長あいさつ…………… 2
- 学校長あいさつ…………… 3
- 同窓会のこの1年…………… 4
- 特別寄稿…………… 8
- 同窓生のページ…………… 10
- 学校の近況…………… 16
- 平成 22 年度入試結果 …… 20
- 新入会員を迎えて…………… 22



題字：創立者 額田 晋先生 書

同窓会総会開催案内

日時 平成二十三年六月二十五日(土)

受付開始 十四時半

総会開始 十五時

(会場 ルーナ)

懇親会スタート 十六時

(会場 プリマベラ)

会場 ホテル「ザ・マンハッタン」
幕張新都心

議案

- ・平成二十二年度事業報告
- ・平成二十二年度会計報告
- ・平成二十三年事業計画案
- ・平成二十三年度予算案
- ・その他

学校の近況報告

- ・東邦中学・高等学校入学をとりまく状況
- ・大学進学状況に関して
- ・その他

※先生方からご説明を頂きます。ご家族同伴の出席可。

懇親会 総会終了後、懇親会を行います。会費は、正会員五千円、学生会員千円とし平成二十三年三月卒業の新会員はご招待とさせていただきます。また、会員同伴のご家族からの会費徴収は致しません。

なお、会場内での喫煙、未成年者の飲酒はできません。

☆出欠のハガキは六月二十三日(木)必着。

FAXでの回答はご遠慮下さい。

☆電話 ○四七―四七二―一一六〇

東日本大震災からの復興を願って

著書「自然・生命・人間」からのメッセージ

東邦中等学校同窓会 自生人 会長 鮎川 二郎（七期卒・千葉商科大学教授）



一、はじめに
東日本大震災により未曾有で甚大な災害に遭われた皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。被災された方々の一刻

も早い復興を心からお祈り申し上げます。
大震災とそれによる原発事故に伴う深刻な事態の復旧と復興に対して、日本中はおもより世界各国からの支援が寄せられている中で、私たちが「がんばろう日本」を合言葉に心を一つにして支え合い日本のために協働することが大切とされています。

二、被災安否確認

本同窓会は、大震災発生（三月十一日）後、直ちに母校同窓会室に東日本地域の同窓生関係者に対する安否確認のための対策本部を設けました。同窓会名簿から青森県、秋田県、山形県、宮城県、岩手県、福島県に居住地が登録されている四十九名の安否確認を続けたところ二十七日まで二十九名の無事（内一名は山田町避難所にボランティア活動中）確認ができ、二〇名が未確認でした。未確認の内訳は、電話による不在未確認、インターネットによる被災者情報に該当者なしでした。その後も電話や手紙等で安否確認を継続したところ、三名から本部への御礼が届き無事確認されました。

三、復興に思いを込めて

私は、今回の地震と津波、それに伴う原発事故発生の直後からしばらくの間、こうした深刻な事

態の発生原因と影響、復旧・復興対策などについて、テレビ放送や新聞等のマスコミからの情報を見聞きし、災害発生と問題解決への因果関係等を自分なりに思考しているうちに「自然」「生命」「人間」のキーワードが浮かび上がってきました。その理由は、地震、津波は自然災であり、それにより多くの人の尊い生命が奪われ、生死を紙一重で生き延びることができた人々の想像を絶するような渦中での暮らしぶりや支援する人々の姿など、人間として力強く生きるための気力が果たす役割義務などを真剣に考えざるを得なかったからです。中でも特に、被災の渦中にある人々の間では、暴徒の発生もお互いに笑顔で支え合う姿に諸外国から賞賛が寄せられるなどから、多くの日本人が言葉では表現しえない感動と誇りを感じていることと思います。こうして集約されたキーワードが「自然」「生命」「人間」であり、即ち時に触れて読み返すことがあった母校の創設者額田晋先生が生涯をかけて「人が力強く生きる道」を問い明かしたとされる一九五七年に刊行された著書で、学校法人東邦学園の建学の精神・教育理念を象徴している「自然・生命・人間」でした。

同著書は、約半世紀前に書き著されたものですが、いつの世にでも地域や世代、様々な職業、立場を乗り越えて、自然と人間を見つめて人生の根本問題や課題を解決しながら生きていくために大切な教訓を与えてくれる貴重な内容として感じ取られるのは私ばかりではないと思います。

そこで本会報を通じて、東日本大震災に関連した災害や原発問題からの早期復興と今後の安心安全な社会が築かれることを切に願い、また、会員皆様と共にそれぞれの立場から今後の在り方などに様々な考えを巡らせる機会となつてくださればという思いを込めて、限られた紙面ですが、敢えて著書「自然・生命・人間」に記されている銘文の中から、その一部を紹介し同窓会からのメッセージに代えさせていただきます。このメッセージが何らかの形で被災された方々にまで届くことを念願しつつ……。

四、著書「自然・生命・人間」からのメッセージ

☆人生はわれわれの内心の表現であり、日々の行為はわれらの内心の絶え間ない現れである。それゆえ心の持ち方ほど大切なものはない。

☆人間は人間だけで生きていくのではない。われわれのまわりには山あり川あり草あり、木ありあらゆるものがある。その中に人間として生を受けたのである。

☆人間はもともと大自然の一部分として、自然界のうちに生命を託しているのである。

☆どんな境遇にある者も生き甲斐のあるように生きなければならぬ。真に生き甲斐のある生き方をしてこそ、はじめて生きることの意味があるのだ。

☆人生にはたしかに耐えがたい苦しみも不幸もある。しかし、いつまでもその為に悩んでいてはいけない。少しでも勇気が出てきたら、心の寂しさに打ち勝つて、さらに前進をつづけねばならない。

☆この世は愛によって結ばれる。互いに助け合い互いに補い合い、また互いに戒め合つて生きる。それが人間の本当の生き方であるのだ。

☆しずかに自分の心を大自然の偉大な力に通わせながら、人間として生きられるだけ生き、そして社会のために人類のために、はたらけるだけ働いてみようではないか。

末筆ですが、会員の皆様におかれましては、今後とも益々ご健勝にてご活躍の上、同窓会事業へより一層の参加と連携・協働を賜りますようお願い申し上げます。

尚、額田晋先生のご著書「自然・生命・人間」をご拝読されたい会員様は、同窓会事務局までお問い合わせください。

付記：「自生人」は、かつてから本同窓会を呼称する会名が存在していなかったため、額田晋著「自然・生命・人間」の各頭文字の採用許可願いを額田家関係者のご承諾と併せて法人からも了承が得られたので、二〇〇八年に正式会名としたものです。

近況報告

東邦大学付属東邦中学高等学校 校長 小高昌次



清々しい季節を迎えました。この度の東北関東大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に被害を

被られた方々への心からのお見舞いを申し上げます。幸い東邦中学校の施設には大きな被害は受けませんでした。破損箇所の修理は終了し、専門家による施設の安全性は確認されています。

また、当日、生徒八〇名ほどが習志館に宿泊しましたが、先生方の迅速な手配等により無事に帰宅させることが出来ました。

同窓会では、東北地方在住の同窓生の方々の安否確認を実施し、大方ご無事であるとの報告を受けて安堵している所です。

復興への道のりは長く険しいものと予想されますが、人々の明日への希望を失ってはいない姿を見ると、日本人の生まれながらにして備えている力強さを感じているところ です。

経済への影響も懸念されますが、この力強さを信じて復興を心より願って止みません。

一月の同窓会新年会の折に、本校へ応援団の団旗と横断幕が寄贈されました。本校のイメー

ジを反映した素晴らしい品です。心から感謝申し上げます。大会等の応援に花咲かせることが出来ると思います。心より厚く御礼申し上げます。

また、この震災を機に、緊急の備品購入に協力の申し出を頂き心から感謝申し上げます。日頃、様々な形でのご支援を頂き、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

今春の卒業生の進学状況はとても良好でした。中一から高三まで、学年団の一貫した指導体制と生徒に対する熱き思いと、卒業生の意識の高さと弛まぬ精進の賜物であると思っております。先生方の尽力と卒業生の努力に敬意を表します。在校生が、この成果を超えるように指導を充実させ、更なる向上に邁進してくれるように期待しているところです。

学校は、生徒を見守る安心感を与える存在であるべきで、それにより自由に新しい可能性を探求する心の拠り所となり得るものと考えています。そのためには、我々教員は「啜啄同時」の姿勢で真摯に生徒と向かい合うように常に心掛けることが大切です。生徒の将来を左右する立場にある我々は、無意識のうちにマンネリ化に陥る危険性を意識し、常に新鮮な感覚を研ぎ澄まし、生徒の個性を尊重し、その成長を手助けする姿勢が大切です。何事も一朝一夕に結果をとばりませんが、将来性豊かな有為な人材を育むために、一致協力して取り組むことが大

切であると考えています。

桜の花の下、四月七日に今年年度の入学式を迎え、中学二八三名、高校三六一名の新入生が入学しました。この震災で多くの児童生徒が他県に転校を余儀なくされている状況において、例年通りに入学式を挙行出来ましたことを有り難く感謝しております。新入生の活躍と本校のより一層の活性化を期待しているところです。

また、今年度の大きな事業としまして、グラウンド全体の人工芝化を予定しています。素晴らしいグラウンドが実現します。完成予定は八月末日です。機会がありましたら是非ご来校して下さいと思っております。

同窓会の益々の発展と、本校への日頃のご支援に感謝申し上げます。



同窓会のこの一年

同窓会理事 北川 太郎 (三十一期生)

同窓会活動のこの一年(平成二十二年六月～平成二十三年五月)を簡単に報告させていただきます。

同窓会会報「ならっの」

第三十号の発行

会報の発送が遅れ、一部の同窓生には会報到着が総会実施日に間に合わないという事態が生じてしまいました。大変なご心配とご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫びいたします。

同窓会総会・懇親会

昨年六月六日、ホテル「ザ・マンハッタン」幕張新都心において、平成二十二年度同窓会総会・懇親会を行いました。

議事は、会報「ならしの」第三十号に提示された議案を中心に予定通り進められ、決算報告、事業報告、予算案、事業計画案等、すべて承認されました。総会に続いて行なわれた懇親会には、学校法人東邦大学理事長炭山嘉伸先生や母校の先生方をお招きし、総会に参加できなかった新会員も加わって、盛況になりました。世代を越えた親睦の場として、情報交換の場として、有意義な集いが実現出来たと思います。



応援団旗・横断幕の寄贈

母校支援の一環として、応援団旗と「自然・生命・人間」の横断幕を作成。平成二十三年一月に炭山嘉伸理事長、小高昌次校長に贈呈しました。



団旗贈呈

二十二年度母校卒業式に向けての取り組み

一、卒業記念品の贈呈
卒業を祝し、例年通り、ペン型印鑑と「鮎川会長デザイン特製ペーパーバッグ」を卒業生全員に贈呈しました。



二、臨時会報の発行

二十二年度も新入会員に対して、「臨時会報」を作成・配布致しました。会報には、同窓会組織・規約の説明、高校卒業生への祝詞と激励などを盛り込みました。

三、同窓会入会式

三月二日（卒業式前日）、母校体育館で同窓会入会式が行なわれ、同窓会事務局担当の御喜和理事（母校教頭）が歓迎の挨拶をしました。

四、卒業式への参加

三月三日、母校体育館で卒業式（卒業生三五五名）が挙行され、渡邊副会長が同窓会を代表して、来賓祝辞を述べました。



卒業式

☆「自然・生命・人間復刻本」寄贈について

東邦高校同窓会では、事業の一環として、学祖、額田晋先生著「自然・生命・人間の復刻本」を東邦中・高の新入生に寄贈してきました。平成二十三年度からは、この事業が法人本部事業に組み込まれることになりました。

会報「ならしの」第三十一号発行

（平成二十三年五月一〇日）

◆同窓会アワード（母校生徒への報奨制度）の実施

規定の従い、次の部活に報奨金を贈呈しました（学校の近況のページに関連記事があります）。

- ・中学校水泳部（関東大会出場）
- ・中学校スキー部（関東大会出場 全国大会出場）
- ・中学校ハンドホール部（関東大会出場）
- ・高校スキー部（関東大会出場 全国大会出場）
- ※関東大会において、男子リレーで優勝
- ・高校硬式テニス部
（関東大会出場 全国大会出場）
- ・高校弓道部
（関東選抜弓道個人選手権大会出場）
- ・高校将棋（全国将棋新人戦大会第5位）

東日本大震災への対応

一、母校への支援

☆母校からの報告

大地震が発生したのは高校の学年末考查日（中学校は自宅学習日）の午後です。交通機関の影響等により約八十名の生徒が学校（習志館）で一夜を過ごしました。習志館は、三百名以上の生徒を収容することができませんが、「緊急時用のブランケットは保管してあるもの」寝具を常備していませんので宿泊した生徒には辛い思いをさせました。「毛布だけでもあったらよかった」と強く思いました。深夜に地域からの避難者（母子二組計六名）が習志館に合流。微力ながら地域貢献ができたかと思えます。本校の生徒、教職員には一人の怪我人もなく、施設被害も軽微でした。

文責 御喜

「毛布があったら」という母校からの報告に基づき、緊急避難時用として毛布百枚を寄贈する予定です。習志館に常備してもらいます。

二、東北地方在住の同窓生への支援

会報二ページの「鮎川会長の挨拶文」の中で報告されている通り、同窓会事務局では、東北地方在住の同窓生の安否確認作業に取り組んでいます。四月二十三日現在、十六名の同窓生の安否が未確認です。引き続き、確認作業を続けるとともに、「被災した同窓生への支援」を検討します。情報をお持ちの方はぜひ同窓会事務局にお知らせ下さい。

三、被災地救済・支援の取り組み

三月末、同窓会の渡邊和彦副会長が、津波被害の傷跡深い石巻市に向き、警察委託歯科医として、医療支援活動に取り組みました。



石巻市の避難所



朝のミーティングを終えて

次ページに渡邊副会長の熱い思いを綴ったレポートを掲載しました。「東邦高校同窓会が今やるべきことは何か」、同窓会の組織をあげて考えていきたいと思えます。

同窓会事務局からのお知らせ

同窓会活動への寄付協力をお願い

平成二十一年度の同窓会総会で決定しました通り、二十二年より会員の皆様に寄付の協力をお願いしています。要領は左記の通りです。ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

記

・寄付金は、一口一、〇〇〇円、二口以上とする。

・振込先 千葉銀行 船橋支店

店番号015

普通口座 3353747

口座名 東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会

(トウホウダイガクフゾクトウホ

ウチユウガッコウ)

※寄付協力は会員の自由意志によるものです。ご質問、ご意見などございましたら、同窓会事務局に連絡してください。



東日本大震災に東邦高校

同窓会がやるべき事

同窓会副会長 渡邊 和彦 (二〇期生)

宮城県災害対策本部ホームページ連絡先に「三月二十八日朝、現地入りできます」と伝えたところ、本部より「石巻日赤病院二階対策室に、午前七時までに入ってください」と連絡が来ました。

二十七日の夜出発して現地入りし、午前七時より全体ミーティング(二〇〇名程)に参加。十一チームに分かれ、まず当日の流れを確認しました。

口腔ケアの必要要請のあった二か所を班長より任せられ、地図を頼りに午前九時出発。午前、午後に避難施設を周り四〇名程の口腔内相談を受け、その場でできたことを行いました。

- 一、義歯が緩いクラスプをプライヤーで調整
- 二、乳歯のCR充填
- 三、義歯の傷消毒
- 四、抜歯後の抜糸
- 五、義歯破折部のトリミング
- 六、歯ブラシの提供

また、昼食、夕食の時間を避けて行えることを少しずつ行いました。

石巻日赤に帰ってから救護日誌四〇名分を記入し、班長の東北大学准教授、服部佳功先生に提出。宮城県歯科医師会災害対策担当に連絡して至急行っていたいただきたい患者四名をお願いしました。

以下、気づいたことを申し送ります。

・自分の食料、飲料、寝具、服装は各自で必要と思うものを持参するとよいと思います。

・石巻市のケース

水、トイレ、ガソリンスタンド、電気はほほないと考えてください。

・三月二十七日には、大通りは通れるようになりました。海側の道路は通れません。

・道はぬかっています。匂いも強いです。

・福島、宮城の高速サービスエリア給油所は混んでいます。二〇〇三〇台並んでいます。

・できるだけ現地入りする前にトイレは行ってください。携帯トイレに関しては、今回は使用しませんでした。必要

になってくるかもしれません。

・小さい避難所に関しては、物資は何でもありがたいと思います。

・小さな避難所で入れ歯安定剤を希望している人が多くいました。昨日石巻の避難所へ少しの食料とともに送りました。

・郵パックが二日前より使用可能になっています。

あまり役に立っていませんが、できるだけ

の協力はしていきますので連絡してください。

いろいろご迷惑をおかけしますがよろしくお願ひします。

これは私が千葉県歯科医師会へ出した報告書の抜粋です。被災地で、私が見た率直な意見です。そして、次に被災地へ入る人達への情報になるといいと思ひ書いた真実の文章です。

この後、千葉から第二次・第三次の医療支援は続いています。これからも、継続的な支援は本気で続けていかなければならないと思います。避難所に避難されている方や、地元で避難も出来ず頑張っている方が生きる為の戦いをしています。この人達を日本中で支えていかなければなりません。その生きる為の支援が一兆円必要と言われています。支援は、全く足りていません。みなさんの心と共に支援を届けていた

・昨年、東邦高校の校長先生に大規模災害用のマニュアルを渡した事を思い出しました。作ったマニュアルは、171の伝言ダイヤルや「慌てず何をしたら良いか」を分かり易く書いてあります。しかし、実際に災害が起こってみると電車が停まり帰れない学生が大勢でたり、マニュアルの不備が分かってきました。今回、学生を校内に泊めて翌日無事に帰すまでに必要になった物資も学校が備えるべきなのか、それとももっと大きな範囲で習志野駐屯地の自衛隊や習志野市防災課と協力して備えるべきものなのか判断し、無駄に慌てて何でも備えない様に工夫していきたい。

まず、母校の生徒と教職員の生命を守る事。そして母校が火災や大きな崩壊がなく、まだ力があれば地域も守っていくスタンスはこれから変わらない。現在、同窓会が行っている東北地方の同窓生の安否確認もまだまだ続いています。被災した同窓生への支援も少しずつですが続けています。

まだまだ考えていかなければならない事がたくさんありますが、私も同窓会も必死でやっていきます。

特別寄稿

「ご挨拶」



学校法人東邦大学理事長
炭山嘉伸

東邦大学付属東邦高校同窓会会報の発行にあたり、今年も皆様にご挨拶申し上げます。

三月十一日、かつて経験したことのない大地震、津波、そして福島原発の事故発生は、日本の歴史始まって以来の大災害となりました。三万人に達しようという犠牲者並びに行方不明者の方々には、心より哀悼の意を表しますと共に、今も厳しい避難生活を余儀なくされている十数万人の被災者に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。今回、自然の猛威の前では、人類の力のなんと儂いものかを、痛切に思い知らされました。

本学学祖の額田晋先生の書「自然・生命・人間」にも自然に対する畏敬の念として「人間はもともと大自然の一部として、自然界のうち

に生き、大自然のうちに生命を託しているのがある」という一節がありますが、改めてこの言葉を重く、そして悲しく受け止めています。今回の災害の規模は、我々、現代の科学を持ってしても「想定外」という言葉で片付けられていますが、災害は、「想定内」で予測できないことが起こることを、私達に教えてくれました。しかし、その代償は、あまりにも大きく、悲しい結果を招きました。

今回の震災に対し、理事長として心配したことは、九、〇〇〇名に及ぶ学生、四、五〇〇名に及ぶ教職員の安否、かつ二、〇〇〇名に及ぶ三病院の患者さん、並びに、全学部・両中高の同窓生の安否と被災状況でした。直後は、情報確認がなかなか得られず、たいへん苦勞致しましたが、法人傘下の教職員の内、二十五名（本人）、七十三名（親族）、学部学生一名、付属中高学生十四名が被災され、同窓生としては、東邦会六名、理学部鶴風会二十七名、計七十三名の日本人が被災されました。付属東邦中高の安否確認では東北地方六県に籍がある四十九名の安否確認の中、三十二名の無事が確認されました。十七名については、未だに未確認の状態とすることを、鮎川同窓会長よりご報告いただきました。

法人としましては、この情報収集とともに、義援金のための募金活動を開始し、被災された学生への学納金減免対応、被災者宅へのお見舞金の準備をしています。

一方、医療機関を有する本学としましては、地震直後の十二日より気仙沼、仙台、郡山、陸前高田、相馬へ計十八隊の医師及び看護師の派遣を致しております。陸前高田市には、現在も

大森病院救命救急センターの医師達が継続常駐しています。今後はメンタルケアを含め、長期化する慢性期患者さんへのケアと、医療材料・薬品等の継続的かつ効率的支援を続けたいと思います。これは、本法人のミッションである社会奉仕・社会貢献を実行する上で、たいへん重要なことと考えています。医師・看護師の積極的な支援活動に、私自身、感謝申し上げます、その尊い心に敬服しています。

国内だけでなく、多くの支援が外国からも被災者に対し向けられています。海外メディアは、今回の災難における日本人の取った規律ある沈着冷静な態度に対し、賞賛を惜しみません。外国では、このような時、暴動や略奪が起こることがしばしばですが、日本人は苦境にあっても助け合い、再興に向かって歩き始めています。世界がこの姿を見て、日本の市民社会に対し、絶大な信頼をよせてくれました。これは、日本人の教養、理性、或いは文化のなせる業かと高い評価をいただきました。また、これは日本が誇るソーシャルキャピタル（社会的資本）だと称えてくれています。巨額の復興経費が、これから十年単位で重く押し掛かる日本にあつて、このソーシャルキャピタルはきつと大きな役割を果たすに違いないと確信します。

付属東邦高校の同窓生の皆さん、法人と一緒になり、法人のミッション（社会貢献・社会奉仕）にご協力いただくことをお願い申し上げます。最後に、同窓会会員の皆様のご健勝と、会の益々のご発展を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

図書館と共に



東邦中学・高等学校司書教諭

立岡成子

三十八年間に職させていただきました東邦中・高等学校を、定年まで二年を残して退職しました。よい生徒に恵まれ、教職員と同窓生の皆様に支えられて、微力ながらも最後まで楽しく仕事を続けられましたことを深く感謝しております。

人生のほぼ三分の二を図書館と共に歩んだ事になります。私にとって一日中生徒と共に過ごせる職場は他には替え難く、たとえ彼等の一人一人と深く言葉を交す機会が少なくても、間接的に彼等のために何かできるという事は、常に大きな喜びでした。

思い返せば三十八年前、現在の東邦大学習志野キャンパスの奥にあった、別棟の小さな図書館から、私の仕事はスタートしました。今思えばあの建物は風情があったと思うのですが、何分若かった私には、古くて暗いイメージしか無く、寒い閲覧室で、歴代校長や昔の偉人達に見下ろされながら、黙々と司書の仕事をしています。初夏の頃には、ダニのような虫が足に付くので殺虫剤を撒いたりした事もありましたが、仕事そのものは面白くて仕方がない時期で

した。

昭和四十八年、下村校長の時に校舎が現在の場所に移転し、図書館は管理棟の二階に移りました。引越しの際、蔵書を一山ずつ紐でゆわえて番号を付け、トラックや生徒達自らの手で新校舎に運んだ後、中央ホールの二階から紐で引き上げたのですが、その大変だった事。今でも忘れられない思い出です。

新しい図書館は明るくて中・高どちらの校舎からも近く、生徒の利用も急増しました。ところが喜んだのも束の間、この頃になって初めて気付かされた事が一つありました。入学当初、目をきらきら輝かせて図書館に来ていた中一の生徒が、最初の中間考査の後、ぱったり来なくなってしまうのです。おそらく成績が振わなかったのでしょうか。心が痛みました。何とかしなければ、と思い、考え付いたのが図書館のオリエンテーションです。生徒に直接読書の大切さを伝えなければ、と思って始めた事でしたが、以後私が一番力を入れる仕事になりました。

平成七年、相川校長の時に特別教室棟が完成し、当時手狭になっていた図書館はその三階へと移りました。前の三倍の広さと電動式の閉架書庫を持つ新図書館で働ける幸せをしみじみと感じたものでした。基本的设计の段階で、新図書館の図面を書かせて頂いた時には、本当に夢ふくらむ思いでした。

その後図書館にもコンピュータ化の波が押し寄せ、アナログ人間の私は、情報の先生方のお力を借りて四苦八苦した後何とか今に至っています。今ある図書館は、本好きはもとより、中・高の生徒がそれぞれ異なった目的を持って集まってくる学習センターとしての役割も果たしています。

三十八年間に、私が機会ある毎に生徒たちに語り続けてきた事があります。それは、読書は学力の向上のためにするものではないという事。国語の成績が上がるとか、読解力がついて大学入試に有利とか、そのようなことは読書の目的とは思えません。若い人達には、古今東西の間たちが本の形で残した沢山の知恵と思いの中から、自分の求めるものを自力で探し出し、なるべく幅広く沢山読んで、頭と心を柔らかく耕していつてほしい。すぐには目に見える結果が出なくても、五年後、十年後に社会に出て解決すべき問題に出会った時、人の意見や溢れる情報に惑わされず自分の頭と心でしっかり考えて、自力で問題を解決できる力が自然に身に付いてくるのだから、と常に話してきました。ある程度の普遍性を持った判断力と少しでも先を見通せる洞察力、そして自分の責任において自らの行動を選び取る行動力は、読書の積み重ねや、多くの人との真摯な関りの中で自然に培われるものだと伝えてきたつもりですが、どの程度伝わったでしょうか。

強いて読書の目的と云うのであれば、『新約聖書』を出典とする『国立国会図書館法』前文の一説「真理はわれらを自由にする」の一言に尽きると思います。この言葉は、退職後に一学生として再出発する私自身の道しるべでもあります。

思いつくままに書き連ねましたが、同窓生の皆様、どうぞ今後共東邦中学・高等学校とその図書館を暖かく見守って頂いて、ご指導、ご支援下さい。最後になりましたが、同窓生の皆様の今後のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。



矜持

二十六期生 新井 豊

私は昭和五十五年三月に東邦高校を卒業しました。大学を卒業後、歯科大病院や総合病院の歯科、更には開業医勤務を経て、現在は埼玉県北部、羽生市にて歯科クリニックを開業しています。早いもので開業後十六年の年月が経ち、様々な患者さんと相手に多忙な日々を送っています。数年前から東邦五十五年卒業生間のメールでのやり取りが行われており、私のような田舎住まいでも同窓生同士のやり取りにリアルタイムで参加することができ、隔世の感がありません。時の同窓生も、社会人としてさまざまな方面で頑張っていることがわかり本当に励みになります。東邦OBのパフォーマンスは、やはり、相当高いものだと思っています。

さて、自分の高校生活を振り返ってみますと、何といっても白羽寮での三年間が忘れられません（今は、懐かしの「習志館」となっているようですが）。何も知らない田舎の子供がその日を境に集団生活の中に入り、上下関係や共同生活のルールの中で混乱し、どのような身の振り方をしたらよいか分からず、時に同級生や先輩たちにかんがりの迷惑をかけてしまったように

思います。そして実は、いまでも「竹刀」で床を叩く音は嫌いです。理由は不明です（笑）。そんな中でも、次第に慣れてくると自分なりの寮生活の「楽しみ方」が解ってきて、二年生になったころには深夜の「吉牛」やら「ブラックセイ〇〇」やら何やら、ここに書けないこと諸々ありました。もちろん勉強もしたような気がしますが、本当にいつまでも忘れられない、何かあのころの生活が今の自分の原点になったように思えてなりません。今でも昭和五十年代の音楽を耳にすると、陳腐な言葉ですが、あの懐かしく素敵な日々を思い出します。数年前の同窓会で再会した時も、寮生OBには独特の親近感を覚えたものです。

そんな中で三年かけてやっと身に付いた事の一つに、「自分の頭で考える」ということがあります。実は、この原稿を書いている今、大地震・津波で二万人以上の犠牲者とか原発事故とか、あるいは経済的に約十五兆円の損失とか、国の存在自体を脅かすような事態が起きています。私が高校・大学にいたあの頃、「新日鉄釜石ラグビー部」が全盛のころで、自分もラグビーをやっていた事もあり「釜石」にあこがれ、その地に二回ほど訪れたことがあります。あのとき、ソビエト連邦崩壊のニュースを釜石市内の宿で聞いて驚いたものです。また、大学時代ラグビー部の夏合宿を気仙沼市で行い、十日間ほど滞在したこともあります。実は今年の正月、ひとりであらりと松島の冬景色を見に行っただけです。

本当に言葉を失う毎日ですが、いよいよ我々自らが本気になって「自分の頭で考える」ことをしないと、次世代の日本が全く立ち行かなくなることは明白です。私は一介の歯科医に過ぎませんが、それでも地域医療・大学・学校歯科

保健・保健行政等色々な立場で社会との接点を持ち、己の立ち位置を踏まえ、社会人としての責任を果たさなくてはと考えています。

最近、「口からものを食べる」ことの重要性が様々な方面から言われるようになってきました。人々の生活の基盤になる「健康」のまさに原点である「食べる」ことに対する歯科医という社会生活上の後方支援の仕事が、五十歳を目前にしてとてもやりがいのある仕事に思えるようになってきました。たとえば要介護状態の方が、口・歯を治すことで自立したり表情が豊かになったり、あるいは次世代の子供たちへのアドバイスを健康づくりの視点から行ったり、また「かかりつけの歯医者さん」として身近な人たちとの歯科医療を通じた関わりを持つたり



松島の冬景色（平成22年12月30日）

して、ささやかながら社会に貢献できることの喜びを感じております。そんな中で我が国の最近の在り方が、いつの間にか「自分の頭で考える」ことを疎かにしてきたように感じてなりません。今回の大災害を、日本、日本に住む人、あるいは自分自身をリセットする最後の機会ととらえ、「自分の頭で考える」、誰かに頼らない、そして、それぞれの能力の中において助け合うということの大切さをもう一度確認することは、いま最も大切なことのように思います。それは、寮生活という小さな社会の中でも大切なことであつたのではないのでしょうか。私にとつてやはり、東邦は「いい学校」でした。

さて、「矜持」という言葉があります。プライドでしょうか……。今まさに日本全体としての矜持をもってこの困難に向かつていくことが、次世代へ繋ぐわれわれの本当の仕事なのかもしれません。再試験は無いのです。

最後に、卒業して三十年たった今日、素敵な宿題を下さつた恩師・鈴木修先生に感謝申し上げますとともに、我が東邦中・高等学校ならびに同窓会のみますすのご発展を祈念申し上げます。

母校の銀杏と

桜の樹によせて思うこと

三十二期生 三 谷 夏 美

(旧姓 藤本)

東日本大震災で被災された多くの方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。私が生協の頃から来る来るといわれていた大地震がまさか原発の事故を伴つたこのようなかたちで起ころうとは思いませんでした。一日も早い終息と復興を願わずにはいられません。

振り返れば、私が初めて東邦中学校の門をくぐつてから長い歳月が経ちました。自宅から近い(京成線で一〇分ほど)ということと、二才上の兄が在学していたというただそれだけの理由で東邦中だけ受験し、たまたま入学しました。兄のいる学校を受けてみるかと両親に聞かれ、何の考えもなしに受けてみたいと言つたのだと思います。

いつの頃からか敷かれたレールの上を走っているような、ガラスの金魚鉢の内側から外側を眺めているような感覚を覚えながらも、時に楽しく時に切なく笑つたり泣いたり六年間を勉強はほどほどに(低空飛行?)、弦楽部や茶道部での部活動を満喫して、今にして思えば夢中で過ごして東邦高校の門を後にしました。

その後、教育実習生として母校に帰つてきたり、最近では、娘の受験で文化祭見学や学校説明会など何度か門をくぐり、当時お世話になつた先生方が変わらずにいてくださることを、ただただ懐かしくありがたく思いました。在学当時、不出来な私を叱咤激励してくださつたり、黙つて傍らで見守つてくださつたり、助言・指導してくださつたりと、そんな先生方に長い時間を経て再会し、東邦の変わらない良さに改めて思い至り、思春期の貴重な時をいかに自由にこの学校で過ごしていたのか、その時には気がつかなくつた母校のありがたさを再認識しました。そしてひょんなことから機会をいただいて勉強し、図書館で東邦生活を再スタートすることとなり、長い時間をかけてまた廻つてきた今という時を感慨深く思っています。多感な時期を東邦中高で過ごしたことの意味を私はずっと心の片隅で探していたように思います。なぜ東邦中高だったのか。その時々には置かれた自分の状況をなぜなのか振り返つてみることはありまし

たが、東邦時代の旧友と同窓会などでふた昔前を懐かしむ機会も少しずつ増え、それくらい長い時間を過ごして後に母校に戻つてきたことに、探していたことの答えが、まるでこれからここで紡いでゆく未来の中にあるのだというような不思議な縁のようなものを感じています。

あのとき置き去りにしてきた時を、もう一度、今の自分の立ち位置から生徒たちの目線を忘れずに今後の時につなげ、まさに今、思春期のただ中にある彼らに図書館活動をおして実りある学校生活、あるいは心の拠りどころとなるような支援をしてゆけたら、と思う次第です。

東邦高校図書館にて



母校での思い出と 考える事の重要性

二十三期生 久保木幸司

今回、この会報に寄稿する機会を得ましたのは、息子が東邦中学に入学し、私が何十年ぶりに行った母校で、当時高校で数学を担当されていた鈴木修先生と再会したのがきっかけでした。その再会時の出来事です。正門付近で私は先生を本人かどうか半信半疑で見っていたのに対し、「久しぶりですな、久保木君。今日は何しに来た。」と、何十年ぶりの再会であり、その言葉からしても息子の入学を知るはずもなかったわけですが、その確信的言葉に驚かされました。さらに、私が試験で解けなかった「あの一問」を頭に思い浮かべたのに対し、「君は〇〇が絡んだ問題を解けなかったですな。」と、その問題の具体的な内容まで覚えておられ、今さらながら「恩師恐るべし」と感じさせられた次第でした。ともあれ、このような再会をきっかけに寄稿の機会を得たわけですが、本稿では私の母校での思い出と考える事の重要性について書き記したいと思います。

私は東邦中・高を昭和五十二年に卒業し、同時に東邦大学医学部へ入学しました。その後、東邦大学大森病院第二内科の研修医となり、現在も同病院の糖尿病代謝内分泌センターで糖尿病を主とした仕事をしています。高校卒業からすでに三十年以上が過ぎましたが、いまでも東邦中・高での出来事が思い浮かんできます。先生方から、ある時には厳しく・激しく怒鳴られ、時には悟るように言い聞かされながら勉強のみならず人としての色々な考え方を教わり、心に残る数多くのことを経験させて頂きました。

高校一年最初の担任挨拶時であったと思いま

すが、板書をしていった押田和夫先生が、振り向きざまに「うるさい！」といきなり後ろの壁めがけチョークを投げたつけた事がありました。当然クラス中沈黙したのですが、私にとっては身の引き締まる思いと同時に話を聞く態度の重要性を再認識させられた今もって印象深く心に残っている出来事です。また、鈴木修先生の「あの一問」を私が覚えていたのは、未だに悔しさが思い出される経験の一つで、やられたという気持ちと同時に次はどう立ち向かえば対処できるか、そのためには何をすべきかなど、数学以外の面でも特に考えさせられた事があったからです。先生方の協力のもとにバレーなどのクラス対抗戦の練習でクラスの団結力が深まった事や卓球部キャプテンになった時の経験などから、チームワークや協調性の重要性、そして苦手であっても自分なりにこなしながら全体のバランスを考えた良い環境をつくっていく能力の必要性を感じ、さらにそれらを向上させる難しさを学んだ事もありました。そして、同級生や部活の先輩・後輩とも苦楽を共にし、その中から色々な経験もしてきた事も思い出します。ここでは多すぎてすべての思い出や経験を語りつくすことはできませんが、私にとって一つだけ忘れてはならないのは兄の存在でした。兄は一つ年上でしたが、私が東邦中から高校へ進学した年と同じくして外部から東邦高へ入学した為、当然ながら同級生となりました。同じ卓球部で共に部活を続け、自宅の卓球台で二人だけの練習をし、勉強も含め互いに切磋琢磨していた中で、兄ではありますが私自身の最も身近な同級生として、何事にも前向きに判断・実行しているのを見た時などに、自分の行動を考えさせられた事もありました。

今考えると一つ一つはたわいな些細な出来

事なのかもしれませんが、このような東邦中・高で経験した考える事の積み重ねが、今の私の人としての成長に役立ってきたのではないかと感じています。そして、そのような考えに至ったのは、留学先ボストンのジョスリン糖尿病センターのKing教授から「手技を覚える事や結果を出す事も大切だが、最も重要なのは、単純かもしれないが『Thinking』だ。」との言葉を聞いた時やアップル社のスローガン『Think Different』(自分なりの解釈では「何か新しいことに向かう時には人とは異なる考えを一つでも加えることが重要」)を見た時に、やはり人の成長には考える事が重要であり一生必要ではないかと再認識させられたからであり、私にとってその積み重ねの起点がどの時期かと考えた時に、前述したような経験などから、それが東邦中・高ではないかと感じたからでした。

現在でも医師として後輩を指導する際に、『Thinking』を常に念頭に置いて行っているつもりですが、私自身もまだまだ未熟であり、これからも自分なりにその起点からの『Thinking』をより発展させるべく精進していきたいと思っております。

最後に、これからの東邦中・高の発展と同窓会の益々の繁栄を心よりお祈りすると共に勉強のみならず運動も含めた色々な面から数多くの『Thinking』を経験し得る東邦中・高であり続けてくれることを希望しております。

東邦を卒業してから十二年

四十六期生 虫明花野子

東邦を卒業してからちょうど十二年、今年私は三十歳になります。高校生の頃は、三十歳の

自分像が具体的に浮かんでいなかったにもかかわらず、漠然と「どこに出しても恥ずかしい人になっていそう」と思っていました。悲しいかな予感的中してしまい、未熟者丸出しで人生を生き散らかしています。

そもその始まりは中学で東邦に入学したところ。やたらと数学の進みが早いとは思っていましたが、理系に強い学校だということは高校生になってから知りました。世の中の人間を二つに分けるとしたら、数学期のある人となし人に分けられると思うのですが、私は間違いなく後者。例えば $2x + 4 = 8$ の x は 2 です、簡単です。でもそもそも x が表すものはなんなのだと考えた時に浮かんでくるのは、プラスチックのコップやテレビやジェット機などつるつるした工業製品。じゃあ犬や納豆や壁のシミはどう扱うのだ。友情は？ 悲しみに震える心は？ $2x + 4 = 8$ になるとは限らないじゃないか。と、 x に当てはめるには無理があるようなものに興味と愛着を覚えていた私は、若気の至りで数学に猜疑心を抱き、早々と訣別を果たしてしまいました。以来、世の中の大半のことは数学や科学が動かしているにも関わらず、「数学期のある人に敬礼！」というなんとも大雑把で他力本願な人生がスタートしてしまっただけです。

そんなに早く数学と訣別して日本史や古典に燃えていたかという、そうは問屋が卸さず、ありあまったエネルギーを部活やお喋りや遊びに注ぐこととなります。いきおい成績は獲物を見つけた鳶のように急下降。この頃、同じく成績が芳しくない友達に「うちら大学なんて受からないしフリーターになるだけだから、十八歳になったら一緒に死のう」という切羽詰まった誘いを受ける、先生からの年賀状にただ一言「新年おめでとう。努力がチョー不足」と記される

など、忘れられないエピソードがあります。要は立派な落ちこぼれでした。

結局十八歳になっても死ぬことはなく、美術大学の油絵科に入学しました。美大と一口に言っても色々な科があり、大きく二つに分けると都会的でハイセンスなデザイン学部と、土着的で泥臭い造形学部に分れ、その間には決して渡ることのできない大きな川が流れています。一番大きな違いは見た目でしようか。フルメイクでヒールをカツカツさせていたらデザイン学部。逆にすっぴんに近い顔面に、ツナギを着用している人は造形学部といった形。言うまでもなく油絵科は造形学部に属します。なにしろ汚かった。兄には「おまえそれでいいのかよ」と心配され、バイト先では「いつもシンナーの臭いがする」と怪訝な目で見られる始末。大学時代のフィナーレである卒業制作の時期には、一日十五時間ぐらい絵を描き続けるため、家に帰ってお風呂に入るのがやっと。体重も 5kg ほど減り、油絵の具を落とすシンナーで手は荒れ放題、洋服は絵の具で汚れ放題、家は散らかり放題、放題三段活用が成立して、それはもうひどい有様でした。とはいえ、大学卒業後も大学付属の工房を借りたりオランダの美大で制作を続けていたので、帰国する二十五歳まで汚い日々が続いたわけですが。

みんなよりだいぶ遅いスタートで始めた仕事は、雑誌の広告制作です。会社に入って一番びっくりしたのは、同僚の身だしなみがとても綺麗だということ。そして親の仇のように煌煌と点灯されたまばゆい電気。さらに入社翌日に小部屋に呼ばれ、絵の具のついたスニーカーとマルチカラーの動物柄のワンピースを注意される。はつきり言って自分は場違いだと感じました。でも働いてみるとなかなか居心地も良く、歓送

迎会の余興係として重宝され、いつもここからの「悲しいとき」を持ちネタにずいぶん表舞台に立ったものです。

その会社を筆頭に、映像の美術制作、広告制作と会社を渡り歩き、今は映画雑誌の編集の仕事をしています。この仕事を一言で言うと「めっちゃめちゃ忙しい」に尽きます。東邦時代にのらくらと勉強をサボったツケが今来ているのでしょうか。赤ちゃんのときに人より寝すぎたのでしょうか。過去にキャッシングした睡眠時間を返済するかのように、まさに寝る間を惜しんで働いています。

感慨深いのは、私がしているのは世の中をちゃんと動かしてくれる人がいる上で成り立っている、いわばおまけのような仕事だということです。そう、東邦時代に数学と訣別したことは、この仕事に繋がる壮大な伏線だったので。ということとはつまり、東邦の同級生の働きに支えられて私は生かしてもらっているということに他なりません。東邦生に再度、敬礼！

私の座右の銘は、「三つ子の魂、百まで」であることをここにお伝えしておきます。



もうすぐ 30 歳

東邦一筋 三十二年 三十一期生 渡邊 学

「新たな朝 今明けて」東邦大学医療センター大橋病院では、毎朝九時に診療開始を知らせる東邦大学の校歌が流れてきます。私は、かれこれ三十二年間の校歌を歌い聞き続けています。一九七九年に東邦大学附属東邦中学校に入学し、東邦高校、東邦大学医学部で学び、東邦大学医療センター大橋病院に就職し現在に至っています。まさに、「東邦一筋 三十二年」です。

東邦中学・高校の六年間は、本当に楽しく充実していました。先生方にとっては決して良い生徒ではなかったと思いますが、多くの友人と出会い、その出会いが今でも自分の財産であり宝になっています。医学部に入ると、「習東（ならとう）出身者は本当に仲がいいよね。」とよく言われます（医学部では（他はどうか知りませんが）、東邦中学・高校は習志野にあるので「習東（ならとう）」と呼ばれています）。確かに、同級生でも東邦高校出身者同士で結婚している人も多いし、高校を卒業して二十五年以上経った今でも東邦高校の多くの友人との交流が続いています。最近では、みんな年をとってきたのか多くの同級生から体調や病気の相談をされるようになりました。実際に手術をした人も何人かいます。しかし、同級生に頼ってもらえるのは、本当にうれしく感じます。

東邦高校卒業後、東邦大学医学部に入学しすぐに硬式テニス部に入学しました。このテニス部での、現学校法人東邦大学理事長である炭山嘉伸先生との出会いが、私の「東邦一筋」をさらに大きく延長することになりました。医学部

卒業後は、当時外科学第三講座主任教授でありました炭山嘉伸先生の強いリーダーシップに惹かれ当然のように外科学第三講座に入局し、医師として育てていただきました。一九九一年に入局して以来、炭山教授が退任されてからもずっと大橋病院に勤務しております。まさに、東邦中学入学以来三十二年間東邦一筋です。今までの人生の2/3以上を東邦で過ごしています。きっと、まだまだ続いていく？ と思います。

しかし、東邦高校を卒業して二〇年以上経ち、習志野へ向かうこともほとんどなくなってしまう頃、当時我々の大切な居場所であった「習志館」の名前を学校に残すために立ち上がった同級生である三矢宏君と北川太郎君が、同窓会理事として活躍している姿を見て影ながら応援していました。特に三矢君とは、学生時代から良いこと（そんなにしていませんが）



我ら東邦高校同窓生

も、紙面に載せられないような悪いこと（こちらのほうが圧倒的に多いですが……）も共にして、卒業してからもずっと親しくつきあっていました。その三矢君から誘われた同窓会総会に出席し、三矢君と北川君が母校のために頑張っている様子を見て、また同窓会理事の諸先輩方と話をさせていただくなかで、何か力にならないかと思っていました。そんな時、同級生の五十畑昭彦君と私を東邦高校同窓会理事に推薦していただき、昨年より理事の末席に加えていただきました。私達を同窓会理事として迎えて下さいました。私達を同窓会理事の先輩方、同窓会会員の皆様方に厚く感謝申し上げます。また、尊敬する炭山先生が東邦中学・高校を含めた学校法人東邦大学理事長となられ、自分が東邦高校同窓会理事を務めさせていただけることは感無量です。我々若手（同窓会のなかでは）の理事が四人となったことは、同窓会として何か新しいことをやれという指示と思い何が出来るか考えました。私自身、母校に愛着はありましたが、これまでは同窓会に対する意識が薄かったというか、ほとんどなかったのが正直なところでした。そこで、私が勤務している東邦大学医療センター大橋病院の職員にアンケート調査を行ったところ、回答してくださったなかで十四名が東邦高校出身者であるということが分かりました（おそらく、もっといると思いますが）。外科の現役医局員では私を含めた五名が東邦高校出身ということは知っていました。が、外科以外の、あの教授もこの研修医も東邦高校出身だったのか！ とお互いに知らなかったことに驚き、今まであまり話したことがなかった先生とも急に親近感が湧いてきました。しかし残念ながら、ほとんどの方が同窓会の存在は知っていても、その活動や総会の開催など

知らないこともアンケートで分かりました。すると、もつと母校の同窓会を知ってほしい、総会に出席して多くの先輩や後輩と交流を深めてほしいという気持ちになりました。理事として何か出来ること……少しでも同窓会が卒業生のコミュニケーションの場として利用してもらえようようにすること、そのためには同窓会をもつともつと知ってもらえるように努力することだと思いました。これを読んでくださっている卒業生の方々が、各学年のクラス会、クラブのOB会などの時に、少しでも同窓会について話し総会に参加してみようかと思っただけならば、あつという間に輪が広がっていくと思えます。総会では、懐かしい先輩や後輩と昔話に花を咲かせたり、いろいろな職業に就かれている方がいらっしやるので仕事や人生の相談をしたり。また、担任の先生が校長先生になられていたり、後輩が先生になっていたり、昔と今の学校の違いに驚いたり……総会は行ってみるといろいろ楽しいですよ。皆様の同窓会です。もつともつと盛り上げていきましょう！是非、皆様のご参加をお待ちしています。

中学三年E組大林ルーム

三十七期生 小倉 千春

平成二十三年四月、中学三年E組大林ルームのクラス会が二年ぶりに浅草にて行われました。東邦卒業から丸二十年。地震の影響で遠方からの参加が厳しい状況でしたが、それでも十六名（+子供四名）の賑やかで和やかな会となりました。

中三Eは、高校から中学校へ念願の異動が叶った大林先生が初担任したクラスで、かわい

い中学生相手にヤル気まんまんな大林先生の発案はどれも独自路線。中でも特徴的だったのが、教室の席が男女ペアで並ぶ小学生のようなスタイル。当初は照れ臭さもありませんでしたが、先生の狙いは大当たりし、どこにも無いくらい非常に男女仲良くまとまった個性豊かなクラスとなりました。当然行事も盛り上がり、文化祭前は劇の稽古で習志館に泊り込み合宿、合唱コンクールでは毎日放課後どのクラスより一生懸命練習した記憶があります。

学年終わりの春休みには富士五湖へクラス総出の卒業旅行。当時の相川校長先生の大反対を押し切り『何かあったら責任は俺が取る』とクビをかけて強行して下さった先生同行の一日二日の旅。学級委員・佐々木君の立てた時刻みのハードな移動スケジュールに、皆が駆け足で電車・バスを乗り換えて、ひたすら移動・観光したのも懐かしい思い出です。巨大コテージでの自炊ディナーには、料理自慢の女性陣がカレーとサラダを大量に作り、皆で長テーブルを囲んだ非常に賑やかな晩餐となりました。

その後も猪苗代へのクラス旅行や、クラス会を重ねていきましたが、学級委員の渡米により一旦中断。三年前、常任永久幹事の佐々木君がようやく米勤務より帰国し、約十年ぶりに、北は仙台、南は九州から懐かしい顔が二十名（+五名）ほど揃いました。その際、先生の十年遅れの還暦祝いにと、頭巾とちゃんちゃんこの代わりに、赤ならぬピンクのハンチング帽とチョッキを皆から贈り、盛大にお祝いしました。ピンクの帽子を被った先生の照れ臭そうな笑顔に、私達の方が嬉しかったのを覚えています。

東邦時代の私は学業も生活態度も完全な劣等生。あの時大林先生が担任でなければ高校へ進学する事もなく中卒で、高校での人生観が変わ

るような素晴らしい出会いもありませんでした。今、自分が心身ともに健康で充実した日々を過ごしているのは、中三という分岐となるタイムミングで、大林先生という懐の大きな先生に出会えたおかげです。そして六年間東邦という温かく豊かな土壌で、人に恵まれ包まれ見守られながら育てて頂けた事に心から感謝しております。

来年はいよいよ四十代突入の私達。互いの健康と活躍を喜びあえる仲間として、いつまでもお元気な大林先生を囲んで笑顔の花を咲かせてゆきたいと思えます。

最後になりましたが、愛する母校東邦のますますのご発展と、先生方のご健勝を心よりご祈念いたします。



大林先生を囲んで

学校の近況

一、在籍数(平成二十三年四月現在)

《中 学》

	第1学年	第2学年	第3学年	計
男子	171名	174名	184名	529名
女子	112名	108名	100名	320名
合計	283名	282名	284名	849名
学級数	7	7	7	21

《高 校》

	第1学年	第2学年	第3学年	計
男子	234名	283名	263名	780名
女子	127名	162名	114名	403名
合計	361名	445名	377名	1183名
学級数	9	11	10	30

二、平成二十三年度 主な学校行事の日程

体育祭(中学) 十月一日(土)
九時から一般公開します。

(高校) 六月二日(木)

文化祭「銀杏祭」(中高合同)
九月十七日(土)・九月十八日(日)
一般公開は土曜が十二時から、
日曜は九時からです。

入学試験

中学校

前期……………平成二十四年一月

後期……………平成二十四年二月

高校

前期選抜……………平成二十四年一月

後期選抜……………平成二十四年二月

三、部活動の活躍

(平成二十二年四月～二十三年三月)

※県大会レベル以上を掲載。個人競技については関東大会以上は氏名を記載。大会の正式名称は省略

中 学

●陸上競技部

第56回全日本中学校千通信陸上競技大会
千葉県大会
兼 第37回千葉県中学校陸上競技大会
兼 第38回関東中学校陸上競技大会
予選会

男子4×400mR 6位
第64回千葉県中学校総合体育大会

男子4×400mR 2位
平成22年度千葉県中学校新人体育大会

男子4×400mR 2位
千葉県中学生テニス選手権大会

男子ダブルス ベスト16
松井克徳(3B) 越川雄太(3D)
千葉県中学生新人テニス選手権大会

学校対抗の部 男子 準優勝
女子ダブルス ベスト16
安富香葉(1D) 安富里菜(1G)

●硬式テニス部

千葉県中学生テニス選手権大会
男子ダブルス ベスト16
松井克徳(3B) 越川雄太(3D)
千葉県中学生新人テニス選手権大会

学校対抗の部 男子 準優勝
女子ダブルス ベスト16
安富香葉(1D) 安富里菜(1G)

スキー部

関東中学生新人テニス選手権大会
学校対抗の部 男子 ベスト16

榎田聖哉(1E) 山本祥永(2G)
古場 匠(2D) 佐藤太夏(2D)
西脇浩孝(2D) 石田誠一郎(2E)
白井琢人(2G) 小坂将也(2D)
山本修己(1G) 篠崎大進(1C)
第48回全国中学校体育大会……………

男子アルペン個人 許 怡亮(2C)
女子アルペン個人 井堀望都(3C)
男子クロカン個人
荻原 怜(1D) 井上啓史郎(1E)
橋本 豪(1A) 宇佐美俊介(1E)
杉山昇太郎(3B) 藤代洋一郎(3C)

水泳部

千葉県中学校水泳競技大会
平成22年度関東中学校水泳競技大会
400mメドレーリレー
山田博之(3B) 稲葉弘明(2B)
西村優希(2B) 安田侑史(3B)
平成22年度千葉県中学校新人体育大会
男子総合4位
第64回千葉県中学校総合体育大会……………

卓球部

第64回千葉県中学校総合体育大会
男子 準優勝

平成22年度関東中学校体育大会
平成22年度千葉県中学校新人体育大会
男子準優勝

平成22年度浮谷杯千葉県中学
春季ハンドボール大会 男子準優勝
第64回千葉県中学校総合体育大会
平成22年度千葉県中学校新人体育大会
第64回千葉県中学校総合体育大会
第39回千葉県中学校新人体育大会

剣道部

平成22年度浮谷杯千葉県中学
春季ハンドボール大会 男子準優勝
第64回千葉県中学校総合体育大会
平成22年度千葉県中学校新人体育大会
第64回千葉県中学校総合体育大会
第39回千葉県中学校新人体育大会

高 校

●柔道部

千葉県高等学校総合体育大会
第6地区予選個人戦 100kg級 優勝
千葉県高等学校新人柔道大会
100kg級 ベスト8
第63回千葉県高等学校総合体育大会
(男子)

●バレーボール部

千葉県高等学校新人バレーボール大会
男子ベスト32
第63回千葉県高等学校総合体育大会
(男子)

●バスケットボール部

千葉県高等学校新人バスケットボール大会
男子ベスト32
関東高等学校弓道大会千葉県予選会

●弓道部

● ハンドボール部

第 63 回千葉県高等学校総合体育大会
関東個人選手権
米沢應子(2G) 熊澤広輝(2A)
千葉県高等学校新人弓道大会
千葉県選手権大会兼全日本選手権・
関東選抜大会選手権大会
関東高等学校ハンドボール大会
千葉県予選会 男子ベスト4
女子ベスト8

● 陸上競技部

第 63 回千葉県高等学校総合体育大会
ハンドボール競技 男女ベスト8
千葉県高等学校新人ハンドボール大会
男子ベスト8
第 63 回千葉県高等学校総合体育大会
千葉県高等学校新人陸上競技大会
第 89 回全国高等学校サッカー選手権大会
千葉県予選

● スキー部

千葉県高等学校新人サッカー大会
第 46 回関東高等学校スキー大会
男子総合位
男子リレー優勝
男子クロカン個人
3 位 谷口和基(2C)
5 位 徳安陽(1G)
6 位 山本志成(2A)
7 位 小菅顕大(1A)
8 位 二野利康(1I)
その他出場
田村嘉彬(2F) 八巻雅弘(2D)
荒尾優太(1E) 大竹 開(1K)
末松 和(1D) 平松利紀(1D)
我有航太(1D) 露崎雄也(1D)
神野皓平(1D)
女子クロカン個人
4 位 星野萌々子(2G)
男子アルペン個人 廣田義明(1I)
第 60 回全国高等学校総合体育大会
男子クロカン個人
徳安陽(1G) 谷口和基(2C)
小菅顕大(1A) 二野利康(1I)
女子クロカン個人 星野萌々子(2G)
男子アルペン個人 廣田義明(1I)
第 66 回国民体育大会
男子クロカン個人
小菅顕大(1A) 二野利康(1I)
徳安陽(1G) 谷口和基(2C)
女子クロカン個人 星野萌々子(2G)

● 水泳部

第 63 回千葉県高等学校総合体育大会
関東高等学校新人剣道大会
千葉県高等学校新人剣道大会
第 63 回千葉県高等学校総合体育大会
関東高等学校剣道大会千葉県予選会
千葉県高等学校新人剣道大会
関東高等学校剣道大会千葉県予選会
関東高等学校総合体育大会

● 剣道部

● 卓球部
● 野球部

男子 400m リレー 石原和真(3D)
喜田大地(3C) 仲谷孝道(1C)
三浦樹生(2G) 坂本 将(2E)
男子 400m メドレーリレー 喜田大地(3C) 坂本 将(2E)
三浦樹生(2G) 水谷雅哉(1B)
男子 800m リレー 石原和真(3D) 中村和樹(2D)
三浦樹生(2G) 水谷雅哉(1B)
男子 200m 自由形 三浦樹生(2G)
千葉県高等学校選手権水泳競技大会
千葉県高等学校新人水泳競技大会
千葉県高等学校新人卓球大会
秋季千葉県高等学校野球大会

四、ご退職の先生

平成二十二年度末をもって、図書館の立岡成子先生がご退職になりました。
立岡先生は昭和四十七年四月に本校に奉職。図書館の運営と図書教育に尽力されました。先生には、玉稿を寄せていただきましたので、ご覧下さい。
文責 御喜

原稿募集

同窓会では、次回会報に記載する原稿を募集しております。
・内容・近況等)自由に
・字数・一〇〇〇字程度
・送付先・習志野市泉町二一三三十七
東邦大学付属東邦中高同窓会
「なら」の原稿係
FAX 〇四七(四七二)一一六〇
・発行予定・平成二十四年五月頃

入試説明会・学校見学会

中学

入試説明会 ①十月十九日(水)
②十月二十日(木)
・両日とも十四時～十五時半
・於 第一体育館アリーナ
・予約、上履きともに不要です。

個別の学校見学

・原則として土曜日の十時に本館ホールに集合
・要電話・ネット予約 上履き不要

高校

入試説明会 十月二十九日(土)
①十時～十一時半
②十四時～十五時半
・於 セミナー館視聴覚大ホール
・要電話・ネット予約 上履き不要
学校見学会 ①七月三十日(土)
②八月二十七日(土)
③十一月十九日(土)
・いずれも十時～十一時半
・要電話・ネット予約 上履き不要

※ TEL 047-472-8191
URL http://www.tohojh.toho-u.co.jp

アウオード贈呈部活からの報告

◆中学校ハンドボール部での思い出◆

小西 明範

まず、僕たちの一番の思い出は、春に行われた県大会でライバルの松葉中学校を倒し、優勝したことだ。これは一生忘れることのない歓喜の思い出だと思う。

中二の新人戦で全く歯が立たず、ボロ負けしてしまった時に比べて、優勝したときは技術面でも精神面でも成長していたのだと思う。なぜ僕たちが成長できたかというと、それはボロ負けして恥をかいた「悔しさ」と、顧問の先生方に「あきらめず最後まで全力でやり通す大切さ」を日々の練習や練習試合を通して教えてもらったからだ。このことが僕たちの精神面を大きく変えたのだと思う。

そして、僕たちの中学最後の思い出は、夏の総体（県大会）の決勝で惜しくも松葉中学校に負けたものの、東邦としては十二年ぶりに関東大会に出場できたということである。一回戦で埼玉の学校に負けてしまったが、関東大会のような大きな舞台に出てプレーしたということは、今後もハンドボールを続けるうえで、とても良い経験になったと思う。しかし、勝つことが出来なかったのが悔いは残っている。

だから、これからは中学の時以上に努力し、技を磨いて、関東大会で負けた「悔しさ」を晴らしていきたいと思う。



ハンドボール部

◆スキー部の活動報告◆

小菅 顕大

スキー部はゲレンデに張ってある赤と青のポールを交互にくぐり抜けてタイムを競うアルペン競技と、陸上のマラソンのように細い板を使って起伏のある長距離コースを滑る(走る?)クロスカントリー競技に分かれて競技を行っています。

今年スキー部は全国中学校スキー大会、全国高校スキー大会(インターハイ)、国民体育大会、高校選抜大会と四つの全国大会に出場者を

出すことができました。これからそれぞれの大会について述べたいと思いますが、自分はクロスカントリーを行っているので、主にクロスカントリー競技について述べることをご了承ください。

また、自分は全国中学校大会に出場しておりませんので、そちらも割愛させていただきます。

全国高校スキー大会(インターハイ)

今年のインターハイは岩手県八幡平市で行われました。去年の全国中学校スキー大会が同じ会場で行われたので、それに出場した自分たち高校一年生には有利だと思い、また、今シーズン一試合目の全国大会だったので自分たちは士気を高くして、試合に臨むことができました。しかし、現実には甘くありませんでした。一日目のフリー種目では自分は気持ち上がりすぎてしまったのか、リラックスできずしかもオーバーペース。一〇km地点で体が動かなくなっていました。一七二人中一〇七位に終わってしまいました。リベンジにかけたクラシカル種目では自分たちの経験・判断力不足、チームワークのなさによるワックス選択のミスやそれによる焦りもあって満足する結果が得られませんでした。続くリレー競技も良い結果を出すことができません、アルペンの廣田君もアクシデントを起してしまい、全体的に悔しい大会となりました。

国民体育大会

インターハイと連続して秋田県鹿角市で開かれた国体の冬季大会。東邦はクロスカントリー種目のみに出場者を出すことが出来ました。県民の皆さんの税金で遠征させてもらっている以

上立派な成績をあげていきたいと思い、試合に臨みました。個人戦は大舞台にも慣れたこともあり、また、北村先生が選んでくださったワックスがうまく効いたこともあり……六十九位（一三六人中）でしたやはり上位の壁は厚かったです。リレーでは自分は一走を担当しました。競技開始のファンファーレが鳴りスタート直前のシンとした静寂、周りにはたくさんのお客さん。ピストルの音と同時に死ぬ気で走りました。しかし前の選手の転倒事故に巻き込まれ、集団から離れる展開になってしまいました。それでもめげずに走り、十七位で二走の先輩にタッチ。結果的にみんなが十四位まで上げてくれ、福島、群馬などに勝つことができました。

高校選抜大会

国体が終わって一日だけ学校に行きすぐに岐阜県高山市に移動しました。この大会もクロスカントリーのみの出場です。自分たちも含めどのチームも連戦で疲労が目に見えており、また標高一三〇〇mという高地でのレースだったため、調整が難しい大会でした。この大会は個人戦しかないので、自分はいいいペースで終盤まで滑ることができました。しかしラスト1kmにある急なS字カーブでほんの一瞬気が緩んでしまいました。その一瞬のスキー操作の遅れで、コースアウトしそうになり、転倒。悪くはない結果でしたが、もう三〇秒速くなっていれば、と考えると残念です。

スキーは個人種目ですが一人が万全の状態です。スタートするためには周りのサポートがすごく重要なスポーツです。今シーズンを通してチームワークの重要性を身にしみて感じました。自

分はチームがあつて人が入るのでなく、「人があつて、チームが出来る。」と思います。一人一人が互いに信頼できる関係になつていけば、価値観の違う人間同士が集まつて意見をぶつけ合い、互いを認めることで、より良い集団になつていくのだと思います。

僕は今部長です。でも僕は部長らしくない部長になりたいです。一人でもまとめるのではなく、みんなでのこのチームを良いものにしていきたいと思っています。人は一人一人オンラインワンのからです。最後になりますが、今シーズンも応援してください。最後になりましたが、今シーズンも応援してください。習志会の皆様、同窓会の皆様、本当にありがとうございます。来シーズン以降も変わらない応援をよろしく願います。



22 年度国体（鹿角）

◆高等学校文化連盟主催 将棋大会結果報告◆

池田 浩司

高等学校二年G組の高橋正太郎君が、平成二十二年に行われた高等学校文化連盟主催の将棋大会において、関東大会および二度の全国大会に出場しました。予選を含めた結果を以下に報告します。

五月八日に行われた総合文化祭予選において、男子個人A級（参加五十八名）で優勝し、八月二日、三日に宮崎県日南市ホテルシーズン日南で行われた全国高等学校総合文化祭に出場しました。この大会では予選にて二敗したため決勝に進むことができませんでした。

また、十月三十日に行われた関東大会、全国新人大会予選では、台風の影響で対局時間が短縮されるなど悪条件の中、同じく男子個人A級（参加六十二名）で準優勝しました。このため、十二月十九日に山梨県甲府市駿甲府高校で行われた第二十一回関東高等学校将棋大会と、一月二十七日から二十九日に栃木県日光市あさやホテルで行われた第十九回全国高等学校新人将棋大会に出場が決められました。関東大会の結果は残念ながら一回戦で負けてしまいました。全国新人大会では一回戦でこの大会の優勝者とあたり一敗しましたが、その後準々決勝まで勝ち進み、ベスト八で総合五位に入賞する素晴らしい成績を残しました。

今年度も、福島県や、京都府で行われる全国大会への出場を目指し頑張つて行きますので、変わらぬ応援をお願いいたします。

平成二十三年度

大学入試報告



進路指導部長 小村 卓司

平成二十三年度入試の特徴

- ① 東京大七名の合格者を出す
- ② 千葉大学医学部に昨年に続き六名合格
(東邦タイ記録)
- ③ 国立大学医学部医学科合格者三〇名
(東邦新記録 首都圏第二位(週間朝日調べ))
- ④ 慶應義塾大学に六十三名合格(東邦新記録)
- ⑤ 早稲田大学に一二三名合格(東邦新記録)
- ⑥ 東京理科大学に一四八名合格(全国一位)

国公立大学入試

国立大学はうち続く国内経済の低迷、所得格差の拡大等の影響で、安い学費に魅力があるためここ数年高い人気が続いています。平成二十三年度入試においてもこの傾向が続きました。それは大学入試センター試験への出願者数の増加、及び二次出願者数の増加に表れています。まずセンター試験の出願者数は、五五八、九八四名でした。これは昨年比五、六一六名の増加となります。このうち現役生の増加は二、二七三名。十八歳人口が伸び悩む中この増加はやはり国立大学入試の表れといえるでしょう。また浪人生では、二、五五八名の増加ということで、驚くような数字です。この原因は「再受験組」の増加です。一旦は現役で大学に合格、入学したものの、その大学に満足できず、再受験をめざすというものです。昨年度もこの傾向が表れていたのですが、今年は更にその人数が増加しています。最近の受験生には、自分の信念を貫かず、安易な合格を求める傾向があるといわれています。在校生にはそのような生徒は少ないと思いますが、戒めたいものです。本校生はセンター試験に在籍三五五名中三三七名が出願しました。受験率は九四・九%というこ

とになります。今年度の受験会場は、東邦大学習志野キャンパスということで、恵まれた会場を割り当ててもらいました。普段と同じように登校できるということには心理的に有利なことです。そして本校生は大変に健闘し、かなりの好成績をあげることができました。科目別の平均点については表1を参照してください。

一方二次出願ではどうだったでしょう。文部科学省から発表された確定出願者数は昨年度より一四、九一七名多い五〇四、一九三名でした。五年ぶりの五〇万人の大会に乗ったことになりました。系統別の志願状況でも経済的な影響が表れています。まず理系人気ということですが、就職に強い理系ということがいわれています。その中でも特に資格が取得できる系統に人が集まったようです。医学部、歯学部、薬学部そして保健衛生系に人が集まりました。いずれも国家資格の取得ができる系統で、しかもそれが就職に直結する系統です。本校生の国立大学受験結果についてふれておきましょう。表2に主要大学の合格者数をまとめました。東京大学に七名の合格者数は五年ぶりの数字でした。この影響で東京工業大学が八名と昨年は減少してしまいました。一橋大学の四名合格は少ない文系の生徒の中では大変な健闘といえるでしょう。また地元千葉大学は三十六名合格でした。これは平成十六年度入試に次ぐ本校第二位の好成績です。さて、医学部志向の強さが本校の特色でもあることは周知のことですが、今年度も医学部受験者が健闘してくれました。まず千葉大学医学部ですが、昨年に続いて六名の合格者を出すことができました。これは本校の最多タイ記録です。そして、この千葉大学医学部も含めた国立大学医学部の合格者数は三十名を数えました。これは本校の最高記録です。それまでは昭和六十二年、平成元年、平成四年に記録した二十六名だったことから、従来を大きく超える合格者数だったことがわかります。そして国立大学の合格者総数は一三一名を数え、表3からわかるように七年ぶりの一三〇台の合格者数でした。

私立大学入試

私立大学はここ十年来続いていた大学改革が一巡し、大きな変化のない入試だったようです。国立大学と違って、私立大学は十八歳人口の減少を受けるとともに、受験校数を絞るということから志願者数が減少した大学が目立ちました。一大学受験するのに三万円以上という中では絞り込まざるを得ないということでしょう。また今年度は、昨年早稲田大学を抑えて、志願者数のトップになった明治大学の志願者数がどうなるかという話題もありました。ふたをあげると、本校の受験者数の多い、早慶上智理科大に、学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政(いわゆるGMARCH)を加えた十大学の中で、志願者数が増加したのは理科大、青山学院、中央にとどまりました。他は軒並み減少し、特に立教は対昨年五千人以上の大幅な減少となりました。立教といえば、大学改革の先駆的な大学として、イメージも良く、人気を博していましたが、ここで頭打ちになったようです。

さて、本校生は冒頭にあるように新記録ラッシュでした。しかし詳細を見ると現役生のみならず既卒生のがんばりも見逃せません。現浪あわせて良く健闘してくれたと思います。早稲田大学は本校史上初めて一〇〇の大会に乗せることが出来ました。また一般入試枠の狭い慶應義塾も六十三名合格は大健闘でしょう。東京理科大は昨年全国一位になりましたが、今年度も続いている全国一位でした。医学部に目を移すと、自治医科大学の三名合格は当然のことながら全国一位かつ本校新記録でした。また難関私立医大では東京慈恵会に四名、順天堂に七名は大健闘といえるでしょう。東邦大学医学部にも指定校推薦を含めて二十二名の大量合格を出すことが出来ました。その他表4を参照してください。

平成二十四年度入試全体の枠組みとしては大きな変化はありません。ただ本校受験者の多い東京工業大のように入試を変えてくる大学もあり気を抜けません。在校生諸君も敏感にアンテナを張り、学力を高めて来たる入試に挑んでくれることと思います。

【表 1 センター試験平均点一覧】

年度	国語	数学		英語		理科			地理歴史			公民		
		数学 I A	数学 II B	筆記	リスニング	物理 I	化学 I	生物 I	世界史 B	日本史 B	地理 B	倫理	政治経済	
21	本校	136.2	77.9	65.6	145.5	29.6	76.3	80.2	72.3	81.4	77.2	71.5	77.5	79.7
	全国	115.5	64.0	50.9	115.0	24.0	63.6	69.5	55.9	62.7	57.9	64.5	71.5	69.3
22	本校	125.0	63.0	72.1	149.0	35.3	68.1	63.1	79.7	75.2	74.7	70.6	77.4	68.6
	全国	107.6	49.0	57.1	118.1	29.4	54.0	53.8	69.7	59.6	61.5	65.1	68.7	59.2
23	本校	132.2	80.2	71.5	153.6	31.9	73.5	67.5	74.8	80.4	79.4	71.8	73.8	72.0
	全国	111.3	66.0	52.5	122.8	25.2	64.1	56.6	63.4	61.5	64.1	66.4	69.4	59.0
	差	20.9	14.2	19.0	30.8	6.7	9.4	10.9	11.4	18.9	15.3	5.4	4.4	13.0

【表 2 平成 23 年度主要大学の合格者数一覧】

大学名	現役	浪人	合計	大学名	現役	浪人	合計	大学名	現役	浪人	合計
北海道大	2	3	5	横浜国大	1		1	順天堂大	4	6	10
東北大		3	3	京都大	1		1	上智大	31	24	55
筑波大	2	3	5	大阪大		1	1	昭和大	6	4	10
千葉大	21	15	36	九州大	1		1	中央大	32	23	55
お茶の水女大	2	1	3	首都大東京	3	1	4	東京医科大	3	2	5
電気通信大	1	3	4	横浜市大	1		1	東京慈恵医大	4	2	6
東京大	4	3	7	防衛医大		2	2	東京理科大	97	51	148
東京医歯大	1	2	3	防衛大		4	4	東邦大	55	5	60
東京外語大	1	1	2	国公立合計	72	59	131	日本医科大	3	2	5
東京学芸大	2		2	自治医科大	3		3	法政大	28	12	40
東京芸術大		1	1	青山学院大	8	11	19	星薬科大	11	3	14
東京工業大	7	1	8	学習院大	17	4	18	明治大	61	34	95
一橋大	3	1	4	北里大	12	8	20	立教大	36	24	60
信州大	1	1	2	慶應義塾大	38	25	63	早稲田大	74	49	123

【表 3 平成元年以来の国公立大学合格者数の推移】

元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
137	123	103	149	139	119	141	127	139	119	111	114	132	131	135	130	119	101	108	91	110	123	131

【表 4 平成 23 年度医学部医学科合格者数一覧】

大学名	現役	浪人	合計	大学名	現役	浪人	合計	大学名	現役	浪人	合計
弘前大	1	1	2	宮崎大	1		1	昭和大	1	2	3
山形大	1	1	2	福島県医大		2	2	東海大		2	2
筑波大	1	1	2	横浜市立大	1		1	東京医科大	2	1	3
千葉大	2	4	6	防衛医科大		2	2	東京慈恵医大	2	2	4
東京医歯大		1	1	国公立合計	11	19	30	東京女子医大	1	1	2
富山大		1	1	岩手医科大		1	1	東邦大	21	1	22
山梨大	1	1	2	自治医科大	3		3	日本大		1	1
信州大	1	1	2	埼玉医科大		1	1	日本医科大	2	1	3
岐阜大	1	2	3	北里大	1	1	2	聖マリ医科大	1	1	2
高知大	1	1	2	杏林大		2	2	福岡大		1	1
長崎大		1	1	順天堂大	3	4	7				

新入会員を迎えて

同窓会は、この三月、三五五名の新しい仲間を迎えました。
新会員の希望に燃えたメッセージを紹介します。

この春、私達五十七期生はお世話になった先生方や、いつも傍らで支えてくれた家族に見守られながら、慣れ親しんだ学び舎を卒業することができました。

人格形成期の大事な時期に、本校の教育理念である「自分探しの旅」をさせて頂いたことは、人生においてとても貴重な体験だったと感謝しています。ともすると、自分が将来進む道は、親の職業や社会環境から安易に選択してしまいがちです。しかしこの恵まれた教育環境の中、私は遠距離通学を気に掛けることなく、様々な学校行事や部活動を通して自分を熟知し、自分が将来生き甲斐を持って進んで行けると思う道を探すことができました。さらには共に笑い、励まし合いながら、自分の長所や短所を的確に指摘してくれる、素晴らしい仲間を見つけることもできました。

東邦での中高六年間を振り返ってみると、陸上部で自分の限界を知り、そして日々、人と協調し支え合う大切さを学んだことは、掛け替えのない財産だと感じています。

これからそれぞれの将来へ向かって歩む時、どうしても越えなければならぬ壁にぶつかることもあるでしょう。そんな時私達はきつと、本校で培った大切な財産を支えに、自ら思い描いた未来の輝く自分に近付けるよう、苦難を乗り越えて行けると信じています。

五十七期生 神山恵里佳

同窓会事務局より

事務局担当理事 岡田 隆治 (36 期生母校教員)

- (1) パート事務員の方の同窓会事務局での執務時間

水曜日 9:30 ~ 14:30

土曜日 9:30 ~ 14:30

同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします

直通電話 047-472-1160 *FAX 番号は電話番号と同じです

- (2) 緊急の連絡に関して

上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません

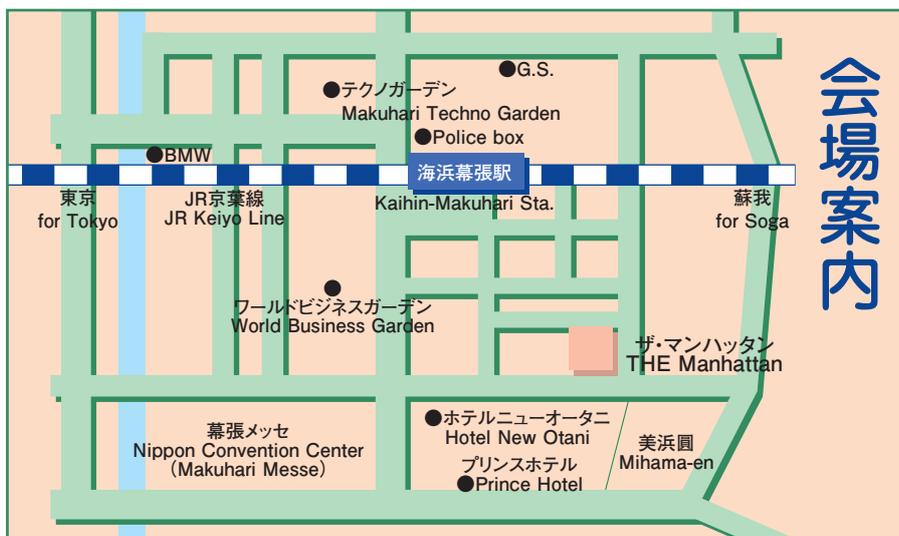
緊急のお問い合わせは学校代表 047-472-8191 にお電話いただき、

「同窓会関係教員」を呼び出してください

- (3) ホームページ等に関して

URL <http://www.dosokai.org>

E-mail shiseinin@yahoo.co.jp



会場案内

◆同窓会総会・懇親会◆

日時 平成二十三年六月二十五日(土)

十五時 総会開会

十六時 懇親会開会

会場 ホテル「ザ・マンハッタン」
幕張新都心

(二階) ルーナ/プリマベール
〇四三(二七五)一一一一(代表)